

	発行者	開隆堂出版株式会社	日本文教出版株式会社
	書名	図画工作	図画工作
<p>(ア) 教科・種目に共通な観点</p>	<p>①編修の趣旨と工夫</p>	<p>①「やってみたい」気持ちを大切に児童の自主性を育むことを目指している。 ・造形感覚や感性を働かせ、自主性や積極性を促す、児童にとって楽しく、興味関心の高まる魅力ある題材内容を充実させている。表現と鑑賞の学習を通して、個性や創造性、自己肯定感を培うことを目指している。 ①協働と共生、持続可能な地球に貢献することを目指している。 ・図画工作の学習が、図工室に閉じられものではなく、共に学び、社会へ広がる様子を掲載することで児童自らが図画工作の学習の意味に気づき、意欲を持って取り組むことができるものという考えを示している。地域の文化を知ることが我が国と郷土を愛し、国際社会の平和や発展に寄与する態度につながることを目指している。 ①ICTの活用で学習を支えることを目指している。 紙の教科書とデジタルコンテンツを一体化して考え、二次元コードや授業で実際に使えるコンテンツを配置し、学習用端末の活用場面を題材紙面に反映させている。</p>	<p>①「やってみたい」という気持ちを引き出すことを目指している。 ・主体的・対話的で深い学びの第一歩である、学ぶことへの意欲を引き出す紙面づくりを目指している。 ・アプリを使う題材や鑑賞方法を掲載している。 ①学習の進め方がわかりやすい内容になっている。 ・特設ページ「教科書美術館」「広がる図工」を、関連が深い題材と連動させて活用することができるよう配置をしている。 ・児童一人一人が、自分の納得できる形や色を探し出すことができるよう、発想や構想、表現のヒントになるコーナーを設けている。 ①成長に寄り添い、学びを広げることを目指している。 ・巻頭には、1年の始まりに適した「オリエンテーションページ・題材」を、低学年・中学年の巻末には、次の学びへ生かすための「振り返りページ」を設けており、児童の6年間の学びが、未来へつながるよう構成を工夫している。 ・図画工作科の学習が、他教科や日常生活、家庭や地域とつながることで、より深まっていって構成にしている。</p>
	<p>(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮</p>	<p>・三つの資質・能力をそれぞれキャラクターで示している。 「知識・技能」；くふうさん、「思考力・判断力・表現力等」；ひらめきさん 「学びに向かう力・人間性等」；こころさん、重点的に育てたい力には、下線を引き、文字の色を変えている。 ・各学年の最初の見開きページには、年間の三つの資質・能力毎の「カリキュラム編成目次」を設定し、教師にも1年間の学習の見通しが持てるようにしている。 ・題材の冒頭に三つの育てたい資質・能力に対応した「学習のめあて」を配置している。 ・題材の末尾には、「学習のめあて」の重点的に育てたい力に対応した「ふりかえり」を簡単な言葉で掲載している。 ① 知識・技能に関する内容が各学年の巻末ページに掲載されている。「学びの資料」では、学年に応じた用具・材料の知識や使い方が示されている。巻末にあるので調べやすく、題材の表現活動と関連し、児童の自主的な活動を支援している。 ②短時間で発想の方法を知り、気軽に実験的に楽しみながら書くことで造形的な発想の方法（見方や考え方）を学ぶ「ひらめきショートチャレンジ」が発想・構想のトレーニングの資料として掲載されている。 ③各題材で「学びに向かう力・人間性等」についてキャラクターを表示して「学習のめあて」が掲載されている。各題材で、「学習のめあて」に対して振り返りをする学習活動が「ふりかえり」で、年間を通して、巻末の「これまでのふりかえりをしよう」で設定されている。</p>	<p>・すべての題材に教科の目標に基づく「学習のめあて」を設け、資質能力の三つの柱の育成が実現できるよう工夫されている。 「知識・技能」；手のひら、「思考力・判断力・表現力等」；豆電球、「学びに向かう力・人間性等」；スマイルマークで表しており、シンプルで見やすい。 ・作品の写真やタイトル、吹き出しから資質・能力を発揮している姿が具体的に分かるようにしている。 ①知識・技能に関する内容について、「すこうのみかた」では、身の回りにある形や色など造形的な見方・考え方でとらえることを促し、知識の習得につなげられるよう工夫されている。 各巻末に「材料と用具のひきだし」ページが掲載されており写真やイラストで丁寧に解説されている。(3・4下 P59) ②3・4年下「ひらめきのタネ」には、様々な発想の方法が、示されており、児童が自ら思考力・判断力・表現力等を発揮できるよう工夫されている。 高学年の絵の題材では、どの児童も発想が広げられるよう表したいことを考えるための視点やキーワード、活動例などが、具体的に示されている。 児童が「創造的に発想や構想」をすることができるように、その手がかりとなる多様な情景写真や参考作品が掲載されている。 ③「学びに向かう力・人間性等」の内容について、「ふりかえり」に活動を通してかんじたり、考えたりしてほしいこととして例示し、児童一人ひとりの気づきを大切に、学びを人生や社会に生かそうとすることができるに工夫している。</p>
<p>(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町</p>	<p>○「みらいにつながる図画工作」で、社会で活躍している人々が図画工作で身に付けた力をどのような場面で使われているかについて掲載されており、未来を見据えた造形活動を示している。「みんなのギャラリー」で伝統の技について、自分の住む地域に目を向け、地域に伝わる伝統の技のよさを見つけることについて促している。 ○さまざまな地域の伝統文化や材料などを積極的に取り上げており、図画工作科が身近な地域・社会につながることを示している。郷土の歴史に関する造形活動も掲載されている。 ○コミュニケーションを促す題材が複数掲載されており、児童の情操教育にも配慮されている。 ○美術館での鑑賞や活動事例を掲載し、生涯を通して美術を愛好する心を育む内容になっている。</p>	<p>○多文化共生や防災・安全、平和・人権など児童が持続可能な社会の創り手となることを見据えた造形活動のテーマを示している。 ○さまざまな地域と協働して活動する事例や、全国の美術館の活動を紹介しており、図画工作科が身近な地域・社会につながることを示している。郷土の歴史に関する造形活動も掲載されている。 ○コミュニケーションを促す題材が複数掲載されており、児童の情操教育にも配慮されている。 ○美術館での鑑賞や活動事例を掲載し、生涯を通して美術を愛好する心を育む内容になっている。</p>	

<p>(ウ) 内容と構成</p> <p>○ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>①「学習のめあて」「ふりかえり」が、各題材に表記されている。 ・様々なキャラクターを用いて、児童にとって親しみやすくなっており、学習のヒントや見方・考え方の視点を与えている。</p> <p>②他教科での学習を生かしたり、関連づけたりした題材や事例が掲載されており、教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントができるように工夫されている。各学年冒頭見開きページには「カリキュラム編成目次」が設定され、育てたい資質・能力を軸に1年間の題材が系統的に図を示めされている。また、関連するページを前後に配置され、学んだ資質・能力や使った材料などを次の学習にいかすことができるようになっている。各題材には「あわせて学ぼう」として、図画工作の学習と他教科や学校生活で関連づけるヒントの例が掲載されている。</p> <p>③共同作品の製作で表し方について話し合い、友達と協力して作品に表す言語活動を生かした作品作りを取り上げている。（5・6下 P10 他）鑑賞の題材では、対話やワークシートの活用、作品についての説明など、さまざまな言語活動への広がりを国語と関連づけて「あわせて学ぼう」としてページの末尾に掲載されている。</p> <p>③巻頭では、造形に関わっているさまざまな職業の人々の姿や本人から児童に伝えるメッセージを掲載し、個人の価値の尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培うことを伝えている。（1・2上・下 3・4上・下 5・6上・下）</p> <p>④各学年の「みんなのギャラリー」の中で、地域の特性を生かした造形活動や造形作品を通して、我が国の伝統文化や郷土のよさなどを伝えている。さまざまな地域の自然や材料を知ることによって環境保全に寄与する態度の育成につながるようさまざまな事例を掲載している。（3・4上 P54・55 他）</p> <p>④児童が地域に目を向け、そのよさや特徴に気づくように、日本の各地に伝わる工芸品や、地域の特徴を生かして行われている造形活動などを多く掲載し、身近な地域の中から児童や学校の実態に応じて活動できるように配慮されている。</p> <p>⑤自然豊かな場所で造形活動を行ったり、自然の事物をモチーフとした表現活動を行ったり、できるように題材の工夫がされている。</p> <p>⑥6年間を通しての冒頭ページには、幼稚園教諭からのメッセージを掲載し、児童に幼児期の造形活動について想起させたり、図画工作の学習への期待感を持たせたりする工夫がされ、幼稚園と小学校の接続に配慮されている。（1・2上 P2）中学校との接続については、「みらいにつながる図画工作」のページを設け、中学校の美術や技術・家庭へのつながりを意識させる内容になっている。（5・6下 P66）</p> <p>⑦学習用端末の活用について「プログラミングで表してみよう」として、作品の表現の広がりについて紹介している。（5・6下）</p> <p>⑦絵画題材で学習用端末での表現活動を試してみることができ作品については、「タブレット端末で」として、製作例が示されている。各題材で活用のヒントとなるよう学習用端末使用場面を掲載している。</p> <p>⑧すべての多様な児童が等しく学べるように表記や表示が工夫されている。学習の入り口でつまずかないように配慮されている。</p> <p>⑧作品の図版には、外国籍児童だけでなく、すべての児童にとっても、指し示す図版を共有することができるように作品名などのデータと合わせて図番号が付いている。</p>	<p>①見開き1ページの中に、導入、展開、振り返りという構成で、主体的・対話的で深い学びを実現しようとしている。</p> <p>②他教科での学習を生かしたり、関連づけたりした題材や事例が掲載されており、教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントができるように工夫されている。低学年は生活科と関連する題材・事例が複数掲載されている（1・2下 P48）。総合的な学習の時間や特別活動と関連させた事例も掲載されている。（5・6下 P54）</p> <p>②道徳と関連の深い教材には、「つながる学び」に「道徳」と示し、道徳の内容項目との関連を意識しながら学習できるように示されているほか、他教科と関連した題材を用意している。</p> <p>③特に鑑賞の題材で、対話やワークシートの活用、作品についての説明など、さまざまな言語活動の様子が掲載されている。</p> <p>③オリエンテーションでは、図画工作で大切にしていることや育みたい力について、児童と保護者に伝えるメッセージを掲載している。</p> <p>④題材ページや特設ページで身近な伝統文化や日本各地の伝統工芸について紹介している。</p> <p>④地域・伝統にかかわる活動や題材を複数取り上げており、1・2年下は伝統的な遊びや玩具、3・4年下は日本各地の伝統美術品、5・6年下は、伝統工芸品を載せている。「つながるすこう」（1・2下）「体でかんしょう」（3・4下）「受けつがれてきた形」（5・6下）</p> <p>④盆栽・焼き物・屏風・浮世絵・水墨画など、伝統的な芸術品に触れられるようなコーナーが設定されている。</p> <p>⑤各学年に共同で取り組む作品や他者とのかかわりを想定した題材が設定されている。また、活動場所も教室・工作室・屋外・美術館など幅広い体験ができるように配慮されている。</p> <p>⑥幼児期からの接続ページ（1・2年上 p.2・3）では、これまでの経験を振り返り、それらを生かしてこれから図工を学ぶことが示されている。中学校との接続ページ「図画工作での学びをふり返ってみよう」（5・6下 P18,19）では、中学校の美術や技術・家庭へのつながりを意識させる内容になっている。</p> <p>⑦学習用端末やカメラを使って、表現や鑑賞している様子が掲載されている。インターネットに作品を掲載する方法について示すだけでなく、著作権・ネットマナーやモラルについての注意事項も掲載している。（5・6上 P65）</p> <p>⑦プログラミング的思考を育むため、発想や表現の幅を広げる活動例を紹介している。</p> <p>⑧児童の発想や構想、表現のヒントになる投げかけを写真やイラストとともに掲載している。</p> <p>○各題材のページ下にはコメント欄があり、活動で使う主な用具のアイコンや関連の深いページへのリンク、注意事項、片付けなどが記載されている。</p> <p>○児童が持続可能な社会の作り手として、現代的な諸課題について図画工作科とのかかわりを通して、考えを深められるよう、環境、地域文化、伝統文化、多文化共生、国際理解、平和、人権、防災・安全にかかわる題材や事例がSDGsの17項目が網羅されて取り上げられている。</p>
<p>(イ) 分量・装丁・表記等</p> <p>① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>①造形・絵画・立体・工作・鑑賞の5領域がバランス良く配置されている。また、写真で各題材が拡大ページにまとめられ、1年間の流れに沿って行事や季節に応じて題材を選択できるよう配慮されている。</p> <p>②全体の構成や使用されているマークが統一されている。</p> <p>②色覚に多様性のあるすべての児童に対して、教科書の内容が伝わるようカラーユニバーサルデザインの観点から識別しやすい配色や形状、イラストの配色や写真の配置などを工夫し、支障なく学習できるよう工夫されている。</p> <p>②水性ペンで書き込んでみてもはじかず、油性ペンで裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。</p> <p>③形やイメージがとらえにくい児童に対して吹き出しや囲みでヒントや説明文を追加し、手順や学習の流れをわかりやすくしている。</p> <p>③書体はすべて読み取りやすいユニバーサルデザインフォントを採用し、単語や文節の途中で改行せず二人読みしやすいようにレイアウトされている。当該学年以降で習う漢字には、初出時だけでなく、すべてにふりがなを付ける「総ルビ」になっている。</p>	<p>①造形・絵画・立体・工作・鑑賞の5領域がバランス良く配置されている。また、1年間の流れに沿って行事や季節に応じて題材を選択できるよう配慮されている。</p> <p>②全体の構成や使用されているマークが統一されている。</p> <p>②色覚特性の有無にかかわらず、すべての児童が等しく学べるよう、コントラストに配や文字の背景色がカラーユニバーサルデザインに配慮して編修されている。誰もが見やすく、目に優しい印象を与えている。</p> <p>②題材名は、見やすく、かつ楽しく取り組めるようデザインされている。</p> <p>②水性ペンで書き込んでみてもはじかず、油性ペンでも裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。</p> <p>③フォントの丸ゴシック体は目に優しく、学年に応じて大きさや行間となっている。各巻の「教科書美術館」や「教科書美術館ミニ」が掲載されている。魅力的な図版が児童の能動的な鑑賞活動を促している。</p> <p>③題材ページの作品コメントや、ふきだしては、活動や作品に関して児童がイメージしたことや発想・構想したことが児童の実際の言葉で示されており、児童にとってわかり易い表現になっている。</p>

(イ) 教科・種目別の観点	①児童が造形的な見方・考え方を働かせながらつくりだす喜びを味わえるように、表現及び鑑賞の内容や題材は適切に取り上げられているか。	①題材名の上に材料・用具が明示されている。 ・「がいこくのともだちのえ」コーナーを設置していて、SDGsにも配慮されている。 ①鑑賞題材を各学年2ページ設定している。 ※「つながる造形」のページで作品鑑賞のマナーなど、美術館での過ごし方も紹介している。 ・児童が「やってみたいな」「どうやって描いたのだろう」と思う気持ちがいってくるような表紙になっている。 ・教科書名が、巻ごとに変わっている。それぞれの成長過程に合わせた題名になっている。 ・題材ごとに掲載されている作品が、その学年で扱う材料で表現されている。 ・巻末資料「学びのしりょう」に様々な道具の使い方、安全への配慮事項が掲載されている。 ・参考作品、活動写真が大きく掲載されているので、細部までよく見ることができる。	①児童作品にサイズが載っているだけでなく、用いた材料についても掲載されている。 多様な国籍の児童が製作する姿を掲載しており、多様性に配慮されている。 ・「がいこくのともだちのえ」コーナーを設置していて、SDGsのインクルーシブ社会の実現につながる国際理解教育にも配慮されている。 ①題材の内容と関連の深い美術作品などが掲載された「教科書美術館」が、題材ページと連続した構成になっており、表現と鑑賞を関連付けて学習できるように工夫されている。 ・シンプルで見やすい教科書名がタイトルになっており、児童が「やってみたいな」と思う気持ちがいってくるような表紙。教科書の中で扱っている題材の児童作品を掲載している。 ・裏表紙には、表紙作品の全体を作者の児童のコメントとともに掲載し、図工の学びを生活や社会へつなげる事例を紹介している。二次元コードで動画や図工作品のギャラリーを見ることが出来る。 ・児童がわくわくするような題材名とリード文になっている。
	②児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、表現及び鑑賞の題材に、工夫や配慮がなされているか。	②自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、題材ごとにさまざまな表現方法が提示されている。 材料・道具（必要なもの）が、各題材のページに掲載されており、道具について簡単に紹介している。 各題材に必要な道具の使い方について学習用端末で確認できるようページごとに二次元コードが掲載されている。	②自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、題材ごとにさまざまな表現方法が提示されている。 作品例に実物のサイズの表記があり、用いた材料が載っているので参考にしながら制作することができる。 題材マークや用具マークの形が、そのものを想起しやすい形を用いている。 道具の使い方特集するページがどこにあるのか、表記されている。
	③「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	③〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「くふうさん」の言葉や児童の言葉や気づきとして吹き出しの形で掲載されている。 ③表現の題材と鑑賞の題材が続けて掲載されている。 ③作品に関連する題材のページが「小さな美術館」に掲載されている。(1・2下 P42,43) 各学年2ページにわたり鑑賞題材が設定されている。 「つながる造形」のページでは、鑑賞活動を通して美術文化を理解するとともに、作品鑑賞のマナーについて触れられている。造形活動の表現の広がりについて SDGsにも関連づけて掲載している。5・6上 P52～55下 P52～55)	③〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるような各題材の導入の言葉を示している。 ③表現しながら、相互に鑑賞している姿や対話が随所に掲載されている。 ③作家作品（古典～現代）を活動に関連づけて取り上げている。 鑑賞のきっかけになる問いかけがあり、児童が想像を広げられるような配慮がされている。 ③巻頭の「教科書美術館」では、身の回りのものから美術作品まで幅広く取り上げ、児童の感性に働きかけ、能動的な鑑賞活動を促すと同時に、見てそれぞれが感じたことを交流することにより対話が生まれ、言語活動の充実にもつなげようとしている。 「広がる図工」で、作品展の紹介や地域で使われている記号や表記の紹介をしている。